

イエス・キリストは欠くところなく人に顕され(啓示され)、人となられた神の心です。

ウィリアム・バークレー WB『DSBシリーズ・ヨハネ伝I』

(新改訳) 1:14 ことばは**人となって**、私たちの間に**住まわれた**。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

(新共同) 7:29…神は人間を**まっすぐに**造られたが、人間は複雑な考え方をしたがる。

はじめに 神の心がひとに ①なる 1:14 ②伝わる 12:44- ③つながる 13:20-
頑化預言(イザヤ6章、ロマ書11章、ヨハネ伝12章末)

1 ①神の心が人となる ヨハネのロゴス使用: 2意味—①ことば: 伝達手段—イエスは神の私たちに
対する伝達手段 もし神が私たちに語りかけようとしていることを知りたいならイエスをみな
さい、とヨハネは教える ②精神・理性・秩序: 宇宙に天然に秩序を持たせ、人の心に理性を
与えるものがロゴス、神の心である。¹

cf 浄土教の弥陀との比較 浄土三部経 世親: 本願・誓衆生の救済成仏…

②神の心が人に伝わる ユダヤ人頑化(預言)・選民の自己絶対化の救済観:

(複雑・困難な条件づけ): 律法遵守……**3で言及する**

2 ③**つながる** ヨハネ伝13:20 **キリストに生きた人 キリストの心をわが心として生きた人**

- ・故シスター岩本アヤ子 ・故松尾春雄 ・渡辺信雄
- ・内村鑑三 新渡戸稲造 ルター
- ・W・バークレー キリストの人

キリストを見る キリストにふれる キリストにつながる キリストに生きる

①WBの生涯と信仰 (略歴参照)における福音伝道のころ

- ・20世紀英国のHome Heathenism(英国内異教化浸透)への懸念
- ・内なる異教国化: 教会・教区制度の衰退の現実
- ・教会堂の別使用化⇒コミュニティセンター・高齢者施設 70年代津崎実地観察

②平信徒の手に聖書を…内村とWBは同じ視線: 異教世界の現代人をキリストにつなぐ

- ・聖書之研究・聖書研究会 Daily Study Bible Series 17巻
- ・イエス・キリスト説明にヨハネ伝冒頭のロゴス論: 神が語る言葉 神の心の表現

WBはロゴスを神の心(Mind=考え・気持ち・感情の総体)と説明することにより、神の心がひとになり、ひとの間に住み、神のMind(全人類救済)をかけるところなく人に語り伝え、人を父なる神との義しい関係に立ち返らせるエイジェントとしてイエスを世に送り、十字架・復活・(再臨)を通じてそれを完成された。

3 **世の抵抗: 人間中心主義・自己絶対化と福音**

①ヨハネ伝 1:5, 10…12:36b-38…頑化預言: イザヤ書6、ローマ書9章、ヨハネ12
受肉受容と頑化預言の背後にある自己絶対化

② コヘ 7:29 ひとの無意識の一主側面 コーヘレトのことば 7:29

「まっすぐに」 VS 工夫・発明・考案・修正・条件付け・遵守事項

③ 内村と吉田絃二郎の会話 軽井沢温泉談話 鍵語: ただそれだけ

¹ バークレー(1975)『奇跡の人生: WB自叙伝』滝沢陽一訳、ヨルダン社、1976、pp.83-85

- ④ 浄土真宗の妙好人の信心：観無量寿經　もし念仏するものは、まさに知るべし、この人はこれ人中の分陀利華（ふんだりけ）なり。因幡の源左　小浜の才市

ひとは原罪ゆえか、おのが救いを工夫し、自ら独自の救いの方法・前提条件を発明する。まっすぐに、ただそれだけ、の態度と心構えで主に信頼することの難しさよ！

（ヨハネ伝 12 章はギリシャ人がイエスに会いたいと登場するところ、12 章末にはユダヤ人がイエスを信じないことをイザヤ書を使って表明。パウロ同様、神は福音がユダヤ人のみに独占されぬよう、彼らを頑なにして、異邦人異教徒の世界へと広がり浸透してゆく預言を示唆している）

おわりに　人となった神の心＝イエス・キリストとの人格的つながりが神と私たちの義しい関係（アバ父よと呼べる関わり）であり、「まっすぐに」彼を信じ信頼し彼のこころをわが心とする生き方、「へりくだらせられる生き方」²これこそ神が私たちに求めていることでしょう。

要点：①神の心が人に啓示され人間になったのがイエスであると理解するバークレーのキリスト認識は、ヨハネがロゴスや受肉・三位一体をギリシャ人に理解させるのに有効と考えたであろう想定したことによる。②ギリシャ人（異教徒・異邦人）というのはWBにとって神無き時代の現代人・一般市民であった。教会に行く人が減り、教会が他目的の建物に変わってゆく現実を見て、彼は聖書を市民に取り戻し、真のキリスト教とはどういうものか、本当のキリストとは誰か、市民に知らせることに生涯をささげた。神は人類の一人ひとりの救いを完成されたが、それに気づかせられるためには聖書の言葉に慣れ親しむことが必要と考え、DSBシリーズ他の著作を著し、ラジオ・TVを通じて聖書講義を行い、福音伝道に生きた。③彼の生涯にふれながら、「キリストの心をわが心として生きたキリストの人」（James Martin の言）³に接することにより人は間接的にキリストを見ることができよう。④神の心が人となったイエス・キリストを通して人は父なる神とつながることができる・・・アバ父よ（おとうちゃん！）と「まっすぐに」父を信頼するように。神と人との義しい関係に立ち返るために。⑤ユダヤ人の頑化が示すように人は救われるために、自己絶対化につながる工夫・発明・条件付け・遵守事項をもうけたがる。律法であれ、洗礼・聖餐であれ、教会／・集所属であれ、聖書の知識であれ、あるいは「信心・信仰」自体であれ、形ある何かの条件・遵守事項をクリアーすることにより、自らを信仰の域に到達させようとする。コーヘレトのいう「複雑な考え方化」である。これに対し、「まっすぐに」神人イエスを信頼せよ、ただそれだけでいい、と父（神）もキリストも内村もいう……おさなごや「ありがたおばさん」や妙好人のごとくに。

参照聖句

ヨハネ伝 12:37 イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行なわれたのに、彼らはイエスを信じなかった。38 それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現わされましたか。」と言った預言者イザヤのことが成就するためであった。39 彼らが信じることができなかつたのは、イザヤがまた次のように言ったからである。40 「主は彼らの目を盲目にされた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見、心で理解し、回心し、そしてわたしが彼らをいやす、ということがないためである。」41 イザヤがこう言ったのは、イザヤがイエスの栄光を見たからで、イエスをさして言ったのである。

12:44 また、イエスは大声で言われた。「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わした方を信じるのです。45 また、わたしを見る者は、わたしを遣わした方を見るのです。46 わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。47 だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。

13:20 はっきり言うておく。わたしの遣わす者を受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

² 減り下り：津崎哲雄：「わたしは、高く聖なる所に住み、心砕かれて、へりくだった人とともに住む。イザヤ書 57 章 15 節（新改訳）」この聖句を「神様の住み給ふ所は二箇所、天の高き所と心砕けて謙る者の心」とする内村は、次のように説く——「へりくだり」とは……多分「減り下り」の意であらう……自分を減じてキリストを増し、自分を下げてキリストを上げること、そのことが謙遜即ち「へりくだり」である、自分がモット々々々減つて卑くならない、人が自分を見て自分を見ずして自分の内に働き給ふキリストを見るやうにならなければならない、自分が全く隠れて了ってキリストのみが現はれるやうにならなければならない、これが真正の謙遜である。」（日記一九二一年七月十七日・全集 34 巻 151 頁）。神人イエス・キリストの減り下りはその十字架に極まる。彼の生涯の多くの場面にへりくだりが父の心として現れ、御言を通して昔も今もこれからも私たちに導いてくださる。幸いなるかな、へりくだる人は！（関西合同聖書集會報 153 号巻頭言の部分）

³ James Martin(1984) *William Barclay: A Personal Memoir*, The St Andrew Press Edinburgh, UK

頑化預言

同上 12:12:36b-38 こう話してからイエスは立ち去って彼らから姿を隠された。このように多くのしるしを彼らの目の前で行われたが、彼らはイエスを信じなかった。預言者イザヤの言葉が実現するためであった。彼はこう言っている。「主よ、だれがわたしたちの知らせを信じましたか。主の御腕は、だれに示されましたか。」彼らが信じることができなかった理由を、イザヤはまた次のように言っている。「神は彼らの目を見えなくし、／その心をかたくなにされた。こうして、彼らは目で見ることなく、／心で悟らず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない。」イザヤは、イエスの栄光を見たので、このように言い、イエスについて語ったのである。とはいえ、議員の中にもイエスを信じる者は多かった。ただ、会堂から追放されるのを恐れ、ファリサイ派の人々をはばかり公に言い表さなかった。彼らは、神からの誉れよりも、人間からの誉れの方を好んだのである。

使徒行伝 28:25-27 パウロはひと言次のように言った。「聖霊は、預言者イザヤを通して、実に正しくあなたがたの先祖に、語られました。『この民のところへ行って言え。あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、／見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍り、／耳は遠くなり、／目は閉じてしまった。こうして、彼らは目で見ることなく、／耳で聞くことなく、／心で理解せず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない。』」

ロマ書 11:7-8 では、どうなのか。イスラエルは求めているものを得ないで、選ばれた者がそれを得たのです。他の者はかたくなにされたのです。8 「神は、彼らに鈍い心、見えない目、／聞こえない耳を与えられた、今日に至るまで」と書いてあるとおりです。

参照文献

1 聖書がそう教えているから 津崎哲雄

主われを愛す 主は強ければ われ弱くとも 恐れはあらし わが主イエス／わが主イエス／わが主イエス／われを愛す 讃美歌 461 番

讃美歌「主われを愛す」(Jesus Loves Me・AB ウォーナー作詞・一八五九年)は世界の愛唱歌です。英詞一番の逐語訳は「イエス様が私を愛して下さってる／このことを私は知ってる／聖書がそう教えているから／子ども(小さな者)たちは彼(イエス様)のもの／かれらは弱い、彼は強い／そうイエス様が私を愛して下さっている(三回繰り返す)／聖書はそう教えている」。子ども讃美歌としても、大人讃美歌としても「きよしこの夜」同様世界中で愛されています。

聖書が教えていることの中心は「イエス様が私を愛して下さっている」ということですが、「子どもたちは彼(イエス様)のもの」もまた聖書がはっきり教えるところ—「神(天)の国はこのような者たちのものである」(マルコ 10・14、ルカ 18・16、マタイ 19・14)、「わたしの名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」(マルコ 9・37、ルカ 9・48)「子どものようにならなければ天の国に入ることはできない」(マタイ 18・3)

安らかに眠っていても、不安・不快や空腹・痛みを泣いて訴えていても、また周りで楽しく遊んでいても、おさない子どもが親(や大人)に全幅の真っ直ぐな信頼を寄せている様子を彷彿させられます。こうした信頼の消息は、「夜暗くして泣く赤児、光ほしさに泣く赤児、泣くよりほかに言語なし」(『求安録』)や軽井沢で入浴中「ありがたや老婆」と接し吉田絃二郎にもらした「ただそれだけ」や「仰瞻」など内村鑑三の信仰・思想の鍵語に顕著です。また、「霞立つ 永き春日を 子供らと手毬つきつつこの日暮らしつ」や「いざ子供 山べに行かむ 桜見に 明日とも言はば 散りもこそせめ」と詠み、乞食(こつじき)をも時をも忘れ貧しい村童と遊ぶ良寛の境地(騰々任天真)にも通じています。

先日この讃美歌にまつわるうるわしいできごとを宮田光雄氏がラジオ(註)で紹介していました。スイスの神学者カール・バルトが戦後シカゴ大学チャペルで講演したおり、若い神学生が「先生の神学体系を短い言葉で表現すればどうなりますか」と質問し、聴衆がかたずを呑んでいると彼が答えました—「よろしい、それは私が幼少期に母のひざ元で教わり歌った讃美歌「主われを愛す」が伝える子どものような素直な(主への)信頼ということになります。」(聴衆は大喝采・拍手!)『ローマ書講解』を

はじめ一万頁に及ぶバルト神学の精髓は、「キリストへの子どものような素直な信頼」、ただそれだけで表現できるものだったのです。彼の神学体系は、「聖書がそう教えているから」信じた讚美歌の真理を生涯にわたり子どものように素直に探求し、厳しい現実を通して実体験した末に賜った恵み／成果なのでした。幸いなるかな、バルト先生！幸いなるかな、子どものように素直に主に信頼する人は！（註一NHKラジオ第2・宗教の時間・宮田光雄「われ弱くとも恐れはあらし〜神学者カール・バルトの信仰」二〇一八年四月一日日曜 午前8時30分〜9時00分放送）『関西合同聖書集会・会報』第一五五号・二〇一八年四月三〇日刊

2 神のこころが人に 津崎哲雄

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。（ヨハネ伝 1:14 新改訳）

今夏の暑さは、地震・豪雨・台風とともに天然の呻きを実感させる。その暑いさなか敗戦（戦争）をめぐる諸史実を記憶する報道に、翁長雄志知事の訃報が続いた。憲法九条の歪曲が米日軍事同盟による統治をゆるし、美しい海と土地と人が濫用され、沖縄の人権を踏みしめる辺野古移設を含む諸問題……。政治による一自治体の濫用は日本国憲法の本質とは相容れぬ。

この濫用に対して、なすべきことがなされないことを放置（放任＝ネグレクト）という。8月12日NHKTVスペシャル「“駅の子”の闘い一語り始めた戦争孤児」は「国の救済意志」に対する犠牲者の憤りに充ちた告発だった。「駅の子」とは身寄り無き戦争孤児で鉄道駅に宿り糊口を凌ぐ子らを意味し、二つの史実が明かにされる—①政府は十二万人以上生じた戦争孤児の保護救済に文字通り無策だった、②専ら失業者・引揚者など大人の保護救済に終始した。映像では、親族に虐げられ駅の子になった者、野良犬同然に狩られ送り込まれた保護施設から逃亡した者、近隣の大人から罵倒され忌避された者など、70余年黙し耐え続けた者たちが、声を挙げ異口同音に憤る。国は救済「大綱」でまず無償で親族に預ける策を講じるが、自らの生存で四苦八苦する親族にそれができるはずはない。保護施設でも同じだった—東京都養育院では一九四五～四六年に2700名の収容児が死亡している。だが、最も衝撃的なのは、当時の厚生官僚が後に「そうした子

どものことなど全く念頭になく、失業者や引揚者の保護救済で手一杯だった」（から仕方がなかった）と述べていることだ。J・ダワー『敗北を抱きしめて・上』（岩波・2001）の分析を想起させられる。

ところでW・バークレーは、「新約聖書で最も偉大な一節はヨハネ福音書 1:14 であろう……ヨハネはこの一節のために独自の福音書を著した」と唱える（『ヨハネ福音書（上）』ヨルダン社一九六八）。「ロゴスとは神のこころ」、わかり易くいえば「キリストとは人となった神のこころ」（Christ is the Mind of God in flesh）と彼は理解する。批判・異論はあろうが、父なる神のこころが人（肉）となり、世に住み人のために生き（今も）、十字架の死により全ての人を救い、復活により御子たること示してくださいだのがイエス・キリストだとする。ギリシャ人（異邦人）を念頭においた解釈で、彼の信仰告白の一面でもある。

神と政府はむろん同列に論じられぬが、苦しむ人々を救済保護する意志（こころ）と実行力のもち主としては同じ立場にある。日本政府の「こころ」は沖縄や社会的孤児（虐待＝濫用や放任などの理由で施設・里親等で暮らす子ども）には向けられておらず、救済どころか戦後一貫して濫用とネグレクトであり続けている。個人や家族に起こることは国家社会でなされていることの反映である。

国や政府の「こころ」を敗戦（戦争）・平和・人権の脈絡において問い続けながら、私たち一人ひとりをおのが救済意志でつつみ、御子を世に降らせ恵みとまことに満ちた生（と死）を授け、全人類の救いを完成された父のこころに想いを馳せ、静かに秋をむかえたいものだ。（関西合同聖書集会報第一五七号）

3 キリストの人 津崎哲雄

四 一般市民のための聖書研究とバークレーの人となり

バークレーは福音の優れた伝達者・意思疎通者として名を遺しました。それは確信する万人救済で救われたはずの多くの人々が、教会から遠ざかり、英国でもキリスト教・教会の衰退が著しく、何とかしてキリスト教にそっぽを向け、教会を自分の暮らしとは無関係だと考えている多くの市民に、まことのキリスト教、本当のキリストを伝えたかったからです。一九三三年に牧師となり赴任した教区の教会での一四年間の牧会や説教は、多くの大切な学びを彼

にもたらしめました。グラスゴー近郊のレンフルー教区のトリニティ教会での牧会でした。教会員は千名を超えていましたが、当時の不況で貧しい教区でした。長老一八名のうち十二名は失業中でした。

ある老女の家庭への牧会訪問のとき、彼女がバークレーにこう打ち明けました。「バークレーさん、こうしてあなたと今ここで話しているとあなたの話が非常によくわかるのですが、教会の説教壇でのあなたの話はまったくちんぷんかんぷんでわかりません。」この老女の言葉がバークレーを稀有な福音伝達者へと練達させるきっかけとなったのです。こんなこともありました。友人の牧師の息子が八歳のときに、バークレーの説教を聞きました。それまで何度も父に説教につれて行かれたことがあったのですが、終わりまで居眠りせずに牧師の説教を聞き終えたのはバークレーの説教が初めてだったと父に告白したというのです。さらに、修繕に訪れた独居老女からバークレーの『ルカ伝註解』をいやいやながらももらった共産主義者の鉛管工が、ひょんなきっかけでそれを読み始め、今まで自分は聖書に何が書かれているか全く知らなかったと告白し、生き方を変えたという逸話など、数えられないくらいあります。

しかしながら、自分は専門の神学者でもなく聖書のエキスパートでもなく、ただまことの福音を多くの市民に知ってもらうために働く意思疎通者であり、そのために召命を受けたのだと、彼は自覚していました。このようにとても低い謙遜極まる人でした。彼は聖書やキリストがいかに自分たちの生き方と関係あるものであるか一般市民に伝えるために召命を受けたのだと強く自覚していました。新約聖書の翻訳も、『日々の聖書研究 17 巻』も、百冊に近い著作も、ラジオ・テレビ出演も、世界中の読者との書簡のやり取りもすべて、キリストの心を己が心とする市民が一人でも多くなるように働かせてもらうという彼の召命感からでた営みでした。

こうしたバークレーのキリスト中心・聖書中心の生き方は、内村の生き方と共通していますが、・・・・・・・・

六 キリストの心 キリストの人

バークレーは、『ヨハネ伝註解』の冒頭で、「キリストは欠くところなく人間に啓示された一あるいは人間となられた、神の心である」(Jesus Christ is the mind of God fully revealed to men) と解釈し

ています。イエスが神の心の完全なかたちでの啓示・受肉であるとすれば、キリストの心は神の心に通じる、というか神の心はキリストの心そのものです。そのキリストの心をわが心とする生き方がキリストの人です。最初に司会者に読んでいただきましたコリントの2章 16 節には「私たちにはキリストの心が与えられています」とあります。これまでの話では定義もせずにキリストの心という表現をたびたび使ってきましたが、これはパウロの言葉でもあるわけです。内村の定義によると「キリストの心とは、人に善をなし、善をなすがゆえにひとに憎まれ、憎まれながら自在に人をゆるし、死に至るまで彼らを愛するの心である…(聖書之研究・明治四三年四月)」ということになります。内村は「キリストの心を有たざる者はキリストの属に非ず…キリスト信者はキリストの心を以て其心となし、キリストを悦ばすことを以て其第一の喜びとなさざるべからず…信者とはキリストの心を以て心となす者不信者とはキリストの心を以て心となさざる者である…キリストの心とは何んである乎。パウロの曰へるが如し、即ち汝等各自己が事のみを顧みず、亦他の事をも顧みよ、汝等キリストにありし此心を以て又汝等の心とすべしと(腓立比書二章三、四節)…」などなど、岩波の全集でも百回以上「キリストの心」を登場させています。

バークレーはキリストの人(キリスト信徒という表現ですが)を「神と安らいでおり、その生活にイエス・キリストの心が反映されており、仲間や友人を愛し、彼らに仕え、イエス・キリストにしがみついている人」と定義しています。私たちが学ぶべきは、二人は神の心が人間となったイエス・キリスト、そのキリストの心を聖書・天然・歴史・人の営みに探り、その心に生きた人々をキリスト教や教会、あるいは他の世界宗教や民族宗教を超えた全人類の中に見出し、神から啓示されたキリストの心の一端を明らかにしつつ、生涯を生きぬいたことであります。キリストの心をわが心として生きることに生涯をかけた real men of Christ、まことのキリストの人として二人が示してくれた真理・道・命であるキリストに従い、ブレースのいう「見えない教会」の「見えない信徒の系統」のメンバーとして私どもも残る生涯を歩みたいものです。

(関西合同聖書集会報 145 号に掲載された 2016 年度内村鑑三記念キリスト教講演会「キリストの人」から 4 節の前半と 6 節を再録しました)

W・バークレイと内村鑑三の略年表 2018年9月23日浜松聖書集会礼拝資料
 (内村鑑三記念キリスト教講演会 20160320「キリストの人」(Men of Christ) 津崎哲雄資料)

William Barclay (1907-78)		内村鑑三 (1861-1930)		年	齢
				WB	内村
1861	(1843年大分裂・自由教会⇄スコットランド国教会)	誕生 3/23 江戸小石川・高崎藩長屋			1
1864	父 William Duglad Barclay 誕生—1936年召天	8人きょうだい(3人は早世)の長男			
1867	母 Barbara Linton McLeish 誕生—1932年召天	父宜之軍政改革失敗謹慎 家族と高崎転居			6
1877	…基督教と基督教会を混同すべきではない…どの時代にも神に従う男女がおり真理を實踐し基督の心を顕わし生きているのを我々は否定できない。彼らが見えぬ教会、信者の見えぬ系統を形成し、教主基督の心と言葉と教えを伝えてきたのだ。 C.L.Brace(1882) <i>Gesta Christi</i> (キリストの業績) 序文	札幌農学校入学 イエスを信ずる者の誓約署名			17
1878		ハリスより受洗(明治11年)			18
1881		札幌農学校首席卒業 開拓使御用係受任			21
1884		結婚(別居1889年正式離婚) 渡米			24
1885	 <p>イエス・キリストは欠くところなく人間に顕された神の心です。 『DSBヨハネ伝』</p> <p>いかなる人でも神への道の知識を独占しているなどと誰も信じないことこそ望ましい……星への道はその道を昇ろうとする人の数と同じように多くある。『自伝』</p> <p>自由教会連合と国教会が再統合</p>	エルウイン就業 アマースト入学 87年卒			25
1886		シーラー学長と出会い贖罪信仰 仰瞻			26
1888		帰国 北越学館就職・辞職			28
1889		横浜かずと再婚 90年第一高等中学校嘱託			29
1891		不敬事件 かず召天 札幌で静養			31
1892		『未来観念の現世に及ぼす勢力』 岡田静子と再婚			32
1893		『基督信徒の慰』『求安録』			33
1895		<i>How I became a Christian</i> 日米刊			35
1898		東京独立雑誌創刊~1900年7月			38
1900		『宗教座談』刊 『聖書之研究』創刊			40
1903	非戦論で万朝報退社 角筭聖研休止・翌年再開			43	
1907	誕生 12月5日 Scotland 北端の街 Wick で	初夢/父死去/天満教会講演/柏木移転/今井館		1	47
父銀行員 ⇨ 連合自由教会平信徒説教家: 息子も自由教会の影響		(同年生 大塚久雄 藤林益三)		1	
1912	Scotland 南西部都市 Motherwell に転居	ルツ子死去 モアブ婦人会 札幌伝道		5	52
	Dalziel High School 卒: 英史数羅希仏語修得	1918(大7)再臨運動~19年5月			58
1929	グラスゴー大学古典学MA最優等卒業	塚本虎二を独立させる ⇨ 聖書研究会解散		22	69
1930	父定年退職・一家はグラスゴーへ転居	古希感謝祝賀会 召天 3/28 『研究』357号終刊		27	70
1932	グラスゴー大学院神学BD最優等修了	 <p>二流の知性の持ち主である私にはオ リジナルな思想はない……私の亡き 後永く読み続けられる著書は一冊も なかろう。(米留学生院生への言葉)</p>		25	
1933	マールブルク大学留学(R.Bultmanの下で)			26	
	牧師叙任 ⇨ 33-47年14年間				
	造船業地区 Renfrew Trinity 教会牧師				
	牧師娘 C.B.Gillespie (Kate 1905-79) と結婚				
1939	第2次世界大戦 Pacifist: 住民・兵士の福祉に尽力			32	
1947	グラスゴー大学新約聖書言語/文学講師			40	
1951	『キリストの特使』 のち上級講師				
1953	国教会出版部聖書註解シリーズ穴埋執筆者に			46	
1955	娘が婚約者とヨット事故死⇄ 異端者神罰との匿名書簡	1957年児童施設の6歳児養女に		48	
1959	DSB(新約)全17巻完成5百万冊超販売 ⇨	30数か国語翻訳 DSB 著作権放棄		52	
1960-62	イエス伝三部作『イエスの心』他	NEB(外典)翻訳委員~1970) 53~		55	
1963	グラスゴー大学神学/聖書批評学教授 ⇨	業績『古代世界の教育理念』のみ評価		56	
1968	『新約聖書』翻訳 『汝殺すなかれ』(67年FOR)	(1969パーキンソン病) 1972『許容社会の倫理』		62	
1974	定年前退職: Strathclyde 大客員教授倫理学	1975 <i>Testament of Faith</i> (自伝『奇跡の人生』)		67	
1978	召天 1月24日	遺産 £135361・90ペンス		70	

Keywords: 異端視/娘の死/万人救済/聖書研究/平信徒 教会相対化/真理分担 (非戦平和) **キリストの心**・キリストの人